



月一だより

中央区立 月島第一小学校

令和8年 1月 NO.507

素敵な年になりますように

校長 藤山 由仁

新しい一年が始まりました。子どもたちの「おめでとうございます!」という元気な声が校内に響き、2026年の学校生活が明るくスタートしました。冬休みの間に心も体もひとまわり成長した子どもたちと再会できたこと、そしてまた日々の学びを共に積み重ねていけることに、私たちは大きな喜びを感じています。

教室に入ると、冬休みの思い出を嬉しそうに話す姿、少し緊張しながらも新しい年を引き締まった表情で迎える姿がありました。子どもたち一人ひとりのそうした小さな変化が、学校全体に新鮮な空気を運んでくれます。まるで“新しい風”が吹き抜けたようで、私たちも背筋が伸びる思いです。

学校は、子どもたちの毎日の積み重ねが未来につながる場所です。

朝の「おはよう」の音が響くと、一日は明るく動き始めます。授業や友だちとの関わりの中で、「わかった!」「できた!」の瞬間が生まれるたび、子どもたちの内側に小さな自信の芽が育っていきます。今年も、その芽がしっかり根を張り、伸びていけるよう、私たち教職員は丁寧に寄り添っていきたいと思います。

もちろん、うまくいく日ばかりではありません。時には思い通りにいかず、気持ちが沈むこともあるでしょう。けれど、そんな日こそ、子どもたちに「学校って、また頑張れる場所なんだ」と感じてもらえるよう、温かく受け止め、励まし、背中を押していきたい——これが私たちの願いです。

また、子どもたちの成長には、保護者の皆様と地域の皆様のお力が欠かせません。日々、家庭で見守り、支え、応援してくださっていることに、改めて深く感謝申し上げます。今年も学校と家庭と地域が、同じ方向を向き、子どもたちの未来を一緒につくっていければと思います。

2026年が、挑戦に満ち、夢が広がり、笑顔あふれる一年になりますように。

子どもたちの輝く瞬間にたくさん立ち会えることを願いながら、私たちも共に前へ進んでまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

【感覚過敏などの特性を持つ児童への理解と対応について】

つばさ学級担当主任

12月、児童がかかえる感覚処理（視覚・聴覚・触覚・味覚）の困難に対し、どのような指導の工夫が考えられるか校内で研修会を開きました。

○聴覚の配慮：イヤーマフの活用や、大きな音を出す前の事前予告など。

○視覚の配慮：座席配置の配慮、教室前面の掲示物を減らす、カーテンによる調光など。

○触覚・味覚の配慮：衣服のタグの除去、給食の無理強いを避ける等の個別配慮など。

安心できる学習環境づくりのために、「感じ方は人それぞれ違う」という多様性をみんなが理解することが求められます。教師が児童の困り感を正しく把握し、児童同士が理解し合える関係を築いていけるよう努力し、今後の指導に活かします。

